

最近かなり世界に日本茶が普及していると感じます。当社から出荷する国名がアジア、東欧諸国が増えています。北欧や東欧では、日本茶や中国茶が飲まれていました。それが日本の茶器が売られています。抹茶ばかりでなくコーヒや紅茶でなく緑茶が飲まれています。それは茶器の輸出することで分かります。個人の店でもかなりの量を買う所が出てきました。定期的に仕入れるようになっています。近年の抹茶ブームもありますが基本的に中国緑茶から日本茶用の急須が多くなっているように思われます。ノーベル賞を受賞した北川教授の多孔性金属錯体と聞いた時、日本の急須や中国の茶壺は、多孔体の陶器でありお茶が美味しくなると言われています。大小の孔が開いていてそれがお茶の雑味を排除すると昔から言われています。磁器ではなく陶器の焼き締め素材だけにしかない特徴です。中国宜興の茶壺と日本の3つの多孔体急須の産地が影響しながら完成された歴史的背景を2026年版追加カタログで説明します。急須は、味を演出します。美味しいお茶や好みの濃さを作ることができ、お茶の種類を生かすことができます。量や温度で好みの味を作り出します。ドリンク製品では味わえない自然の味を作り出します。それと知識の普及も必要になります。それまで以前日経流通新聞の新製品の紹介コーナーがあります。数回掲載してもらいました。その時は、うっかり小売りはしないと伝える事を忘れました。製品は、「蓋無し急須」で、大阪の新聞に販売目的で掲載されました。その時客は、お年寄りが多かったですが、お客さんから電話がかかってきました。そこで一番喜ばれたのは、蓋の無い事でした。落として壊すことがないと言う事でした。それと使いかって良かったです。最近少し重くて頑固の白い蓋無し急須を売り出したのですが、少し重いと思いましたが、よく売れています。普通の急須は、ふたが無いとそれで寿命は終わりますがこの急須は、これで無寿命が延びます。それとこれ子供達の練習用の急須にすれば、学校の先生方の教え方も楽になるとおもわれます。



晶



Y25-363 3600 マット釉薬



Y-25 0378 ¥1400 中国製



BOX-30 ¥2000 16.5×H12cm
駿河指物 現品のみ